

プロローグまとめ

フラニール

ガルムとテオの二人はフラニールに来た。
馬使いから、ここ二週間ほどサルメへの定期便が休止になっていると教えられる。
フラニールから第二の都市サルメへの直線距離は約300km。
この間の交通がマヒしているということはリアスがマヒしているのと同然である。

フラニールからサルメへの道中

街道を歩く人もおらず道中の宿は開店休業状態。
人は口々にサルメに行くのはやめた方が良いと言う。
理由を尋ねたらサルメに行った者は帰ってこないからと言われる。
おかしくなっただけからすでに二週間になると言われた。
ガルムとテオが来る二日前にルシアというピンク色の長い髪の愛らしいプリーストの子と仮面の騎士とキザっぽい魔術師と影の薄い男の4人のPTがサルメに向かったという話を聞く。
ガルムが泊まった部屋に残っていた臭いを記憶。(男の臭いだった。女の子の匂いはなかった)
部屋の中を調べたが特に何も出てこなかった。

サルメの関所

商人らしい男が番人をして通行料を徴収している。
「最近、ただで通すのは損してるように感じてな！」
外から人が来なくなると給料が出なくなるとつっこんだら、
「給料？いざとなったらお前らから金目のあるものを奪えば良いだけだろ！」
ここを通る人がいなくなるとつっこんだら
「そうになったら他の町にまで出稼ぎだな、ははははは！」
ガルムがオカリナを吹いて和ませようとしたらオカリナをよこせと要求してきた。
周りの男たちはゲラゲラ笑っているが番人は苛立っている様子。
ガルムがフック付ロープを、テオがマジックポットを与えるとすんなり通してくれる。
街に入ったガルムたちが見たものは――
「そこらじゅうが、赤かったのである！」

プロローグ終了！！